

# 案件要約表 (M/P)

作成1995年 8月  
改訂1996年 3月

ERP KYR/S 101/94

| I. 調査の概要                    |  | II. 調査結果の概要   |         |        |     | III. 調査結果の活用の現状      |  |
|-----------------------------|--|---|---------|--------|-----|----------------------|--|
| 1. 国名                       | キルギス   | 1. サイト<br>又はエリア   | キルギス国全域 |        |     | I. プロジェクト<br>の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用<br><input type="checkbox"/> 遅延<br><input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名                      | 銀行決済システム改善開発調査                                     | 2. 提案プロジェクト/計画予算<br>(US\$1,000)   | 1)      | 28,700 | 内貸分 |                      |  |
| 3. 分野分類                     | 行政/財政・金融   |   | 2)      |        | 外貸分 | 28,100               |  |
| 4. 分類番号                     |  | 3. 主な提案プロジェクト   |         |        |     |                      |  |
| 5. 調査の種類                    | M/P  | 首都ビシマケックを中心としたコンピューターネットワークによる銀行決済システムの構築。<br>着入計画の機器構成は以下の通り。<br>(1) 中型コンピューター 19台 (ビシマケック9台、地方10台)<br>(2) 小型コンピューター 11台 (ビシマケック6台、地方5台)<br>(3) 小型コンピューター 62台 (ビシマケック44台、地方18台)<br>(4) 周辺機器 19台 (ビシマケック14台、地方5台)<br>(5) ターミナルシステム 300台 (全地域) |         |        |     |                      |  |
| 6. 相手国の<br>担当機関             | キルギス銀行<br>National Bank of Kyrgyzstan              | (平成7年度在外事務所調査)<br>銀行システム改善後、本件を1997年より実施する予定である。  |         |        |     |                      |  |
| 7. 調査の<br>目的                | 金融システム構築の方向開発戦略の策定<br>コンピューターによる銀行決済システムの改善開発計画の策定 |   |         |        |     |                      |  |
| 8. S/W締結年月                  | 1993年 8月   | 4. 条件又は開発効果   |         |        |     |                      |  |
| 9. コンサルタント                  | ユニコ・インターナショナル(株)<br>(株) さくら総合研究所                   | 【条件】<br>外国のソフトウェア開発会社に当初の開発を依頼し、徐々に開発過程において現地側に技術移転を行う。<br><br>【開発効果】<br>①国民経済全般の発展に幅広い効果をもたらす。<br>②市場経済化による経済発展に大きな貢献をする。  |         |        |     |                      |  |
| 10. 調査団                     | 団員数  | 10  |         |        |     |                      |  |
|                             | 調査期間   |   |         |        |     |                      |  |
|                             | 延べ人月   | 69.00   |         |        |     |                      |  |
|                             | 国内   | 42.00   |         |        |     |                      |  |
|                             | 現地   | 27.00   |         |        |     |                      |  |
| 11. 付帯調査・<br>現地再委託          | なし   |   |         |        |     |                      |  |
| 12. 経費実績<br>総額<br>コンサルタント経費 | 250,000 (千円)                                       | 5. 技術移転   |         |        |     | 3. 主な情報源             |  |
|                             |  | ①現地担当者ソフトウェア開発能力の向上   |         |        |     | ①、②                  |  |

外国名: Improvement of Payment System in the Kyrgyz Republic

# 案件要約表 (M/P)

作成 1995 年 8 月  
改訂 1996 年 3 月

ERP KYR/S 102/94

| I. 調査の概要                    |  | II. 調査結果の概要  |   |     |       | III. 調査結果の活用の現状      |  |     |
|-----------------------------|--|--|---|-----|-------|----------------------|--|-----|
| 1. 国名                       | キルギス   | 1. サイト<br>又はエリア  | 首都ビシュケク他国内各地  |     |       | 1. プロジェクト<br>の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用<br><input type="checkbox"/> 遅延<br><input type="checkbox"/> 中止・消滅 |     |
| 2. 調査名                      | 全国ラジオ・テレビ放送網整備計画   | 2. 採算プロジェクト<br>／相対予算<br>(US\$1,000)  | 1) 84,700   | 内貨分 | 1) 2) |                      |  |     |
| 3. 分野分類                     | 通信・放送/放送   | 3. 上な採算プロジェクト  | (状況)<br>本調査の提案プロジェクトのうち、緊急度の高いテレビ放送制作施設の老朽更新・強化について、日本の無償資金協力要請を準備中と、行われている。<br><br>(平成7年度在外事務所調査)<br>本調査結果を基に、SNBCは別の番組の放送を開始しており、質の改善に努めている。日本政府に対し、技術協力及び放送サービス改善のためのセミナー開催の要請がなされている。   |     |       |                      |  |     |
| 4. 分類番号                     |  | 1. ラジオ放送制作施設・設備<br>(1) ラジオセンター施設・設備の老朽更新<br>(2) ラジオセンター施設設備の近代化<br>2. ラジオ放送制作施設・設備<br>(1) 旧テレビセンター施設・設備の老朽更新<br>(2) オールウェイズ放送局施設・設備の老朽更新<br>(3) 既存カメラをCCD型に更新<br>3. 送信施設・設備の老朽更新<br>(1) ラジオ送信施設・設備(長波・中波・短波・FM)の更新<br>(2) テレビ送信施設・設備の更新<br>4. 番組放送施設・設備<br>(1) 番組放送施設・設備の老朽更新<br>(2) キルギステレビ第2放送開設に伴う番組放送回線の整備 |   |     |       |                      |  |     |
| 5. 調査の種類                    | M/P  | 6. 相手国の<br>担当機関  | 同管放送協会<br>State National Broadcasting Company<br>(SNBC)   |     |       |                      |  |     |
| 7. 調査の<br>目的                | 「民主化・市場経済化」に対応し得る放送サービスの確立のため、放送事業の運営、番組ソフト面の改善及びこれをささえるハード面の改善等を目的とした2000年を目標年次とするM/Pを設定するもの。 | 8. S/W締結年月   | 1993 年 7 月  |     |       |                      |  |     |
| 9. コンサルタント                  | (株) NIKKアイテック  | 4. 条件又は開発効果  | 【条件】<br>①総合的な放送制作を確立し、基本的な放送法則を制定<br>②国民のニーズに応える番組編成<br>③公共事業体への移行を含む運営形態の変革<br>④役員報酬制度の導入を含む財源の確保<br><br>【開発効果】<br>本整備計画が実現すれば次のような効果が期待できる。<br>①各種情報番組、スペシャル編成のワイド番組、多様な素材を生かした現代的感覚の番組を通じての、民主化・市場経済化の機運醸成<br>②子供教育・成人教育水準の向上<br>③地域開発への参加の拡大<br>④世界情勢理解の増進<br>⑤環境保護意識の醸成<br>⑥医療・保険体制の改善<br>⑦女性の自立支援 |     |       |                      |  |     |
| 10. 調査<br>団                 | 団員数  | 12   |   |     |       | 2. 主な理由              | 本調査結果は、国家開発計画に含まれている。  |     |
|                             | 調査期間   | 1993.12-1995.2(15ヶ月)   |   |     |       |                      |  |     |
| 11. 付帯調査・<br>現地再委託          | 延べ人月   | 53.39  | 5. 技術移転   |     |       |                      | 3. 主な情報源   | ①、② |
|                             | 国内   | 22.07  |   |     |       |                      |  |     |
|                             | 現地   | 31.32  | 長波短波放送、番組編成、運営・編成、放送設備計画等について現地カンファレンスを開催し、技術移転を行った。<br>研修生受け入れ   |     |       |                      |  |     |
| 12. 経費実績<br>総額<br>コンサルタント経費 | 223,206 (千円)<br>218,980  |  |   |     |       |                      |  |     |

別添名称 Development of Radio and TV Broadcasting in the Kyrgyz Republic

# 案件要約表 (M/P)

作成 1994年 3月  
改訂 1996年 3月

ERP POL/S 101/92

| I. 調査の概要                    |  | II. 調査結果の概要   |   |     |    | III. 調査結果の活用の現状   |  |
|-----------------------------|--|---|---|-----|----|---|--|
| 1. 国名                       | ポーランド  | 1. サイト<br>又はエリア   | ポーランド全国 (人口 3,820万人、面積 312,000km <sup>2</sup> )   |     |    | 1. プロジェクト<br>の現況(区分)  | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用<br><input type="checkbox"/> 遅延<br><input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名                      | 総合交通計画   | 2. 提案プロジェクト<br>ノ出向予算<br>(US\$1,000)   | 1)  | 内賃分 | 1) |   |  |
| 3. 分野分類                     | 運輸・交通(運輸・交通一般)   | 3. 主要提案プロジェクト   | 2)  | 外賃分 |    |   | (状況)   |
| 4. 分類番号                     |  | 1. マスタープラン 短期計画 (93-96)<br>鉄道 ポーランド国鉄の合理化・近代化<br>道路 既存道路の道路政策準備<br>港湾 港湾近代化政策の準備<br>航空 航空行政、インフラ強化<br>都市交通 都市交通企業の合理化<br>運輸行政 運輸行政の再編 | 中期計画 (97-2000)<br>ECとの連携強化、高速輸送<br>高速道路整備、道路行政強化<br>港湾競争力の強化<br>航空輸送国際化促進<br>未完了プロジェクトの完成<br>EC統合にむけた準備   |     |    | 1. プロジェクト<br>の現況(区分)<br><br>(状況)<br>1. 運輸省の組織改革<br>・調査団は従来の改修別組織に加えてモード別組織の必要性を提案した。<br>これに対し、ポーランド側は以下の対応を行っている。<br>①新設部局：鉄道局、民間航空局<br>②改組<br>交通政策局：旧交通システム局と旧運輸力局を併合<br>民間化管理局：旧組織管理局<br>自動車輸送局：旧地上交通行政局<br><br>(平成5年度在外事務所調査)<br>調査の結果は、ポーランド側が以下の内容ペーパーを作るために活用された。「市場<br>経済及びヨーロッパの新しい協力状態へポーランドの交通システムが取り入れられるた<br>めの現実的ステップ及び交通政策」<br>「ポーランド交通システムEC交通システムへの統合」<br>個別プロジェクト・プログラム<br>・運輸行政の改善：機構改革を進行中<br>・CMR鉄道線の改良：実現のためJICAにFISを要請<br>・港湾情報システム整備：ゼネラルカーゴターミナル整備<br>・2000年に向けた国家海運政策のために活用<br>・ポーランド国鉄管理高層プログラム<br>既に実施フェーズにある。研修コースを実施する会社を既に選定した。<br>・ポーランド国鉄の機構改革：<br>JICAに専門家の派遣を要請。第2段階の機構改革に活用。<br><br>(平成6年度国内調査) (平成7年度国内調査) 追加情報なし。<br><br>(平成7年度在外事務所調査)<br>・ポーランド国鉄は機構改革を実施中であり、民間化に向け日本政府からの技術協力の<br>可能性を探っている。 |  |
| 5. 調査の種類                    | M/P  | 2. プロジェクトとプログラム<br>・運輸行政の改善<br>・CMR鉄道線の改良<br>・ポーランド国鉄管理者訓練プログラム<br>・道路財源システム整備<br>・港湾情報システム整備<br>・ゼネラルカーゴターミナル整備                      |   |     |    |   |  |
| 6. 相手国の<br>担当機関             | 運輸省 (MIME)   | 4. 条件又は開発効果   | 【前提条件】<br>ポーランドは社会主義経済から資本主義経済への移行期にある。そのため、1992年-1995年では<br>経済活動は下降する。1996-2000年は復興期であり、2000年には1989年水準に回復すると見られる。2000年<br>以降は持続的成長期と考えられ、2005年の水準は1989年の30%増に達する。<br><br>【輸送需要】<br>従来の経済フレーム及び社会フレームに基づき、全国ベースの輸送需要量を想定した。自動車<br>保有率 (1000人当たり) は1990年の138台から2005年には298台へ増加すると考えられ、旅客輸<br>送の機関別シェアは1990年の自動車40%、バス31%、鉄道29%から2005年には自動車70%、バ<br>ス17%、鉄道15%、その他3%が、2005年にはトラック86%、鉄道11%、その他3%となると想<br>定された。<br><br>*付帯調査として、以下の調査を実施した。<br>「交通調査」、「農産物調査」、「ポーランド経済改革動向把握に関する調査」、「西ヨー<br>ロッパでの交通、運輸システム整備に関する現状及び東西ヨーロッパ統合に<br>伴う今後の課題整理」。 |     |    |   |  |
| 7. 調査の<br>目的                | ポーランド国政府の要請に基づき、市場経済体制への移行に対応するため、国鉄総合交通計画に関する2005年を目標とするマスタープランを策定し、短・中期の優先実施計画を提案する。 | 8. S/W締結年月  | 1990年 11月   |     |    |   |  |
| 8. S/W締結年月                  | 1990年 11月  | 9. コンサルタント  | (株) パシフィック・インターナショナル<br>(財) 国際臨海開発研究センター<br>(社) 海外鉄道技術協力協会  |     |    |   |  |
| 9. コンサルタント                  |  | 10. 調査団   | 10. 団員数 17<br>調査期間 1991.3-1992.12(21ヶ月)<br>延べ人月<br>国内 109.20<br>現地 22.90<br>86.30   |     |    |   |  |
| 10. 調査団                     |  | 11. 付帯調査・<br>現地再委託  | 交通調査、農産物調査、ポーランド経済改革動向把握に関する調査、西ヨーロッパでの交通、運輸システム整備に関する現状及び東西ヨーロッパ統合に伴う今後の課題整理   |     |    |   |  |
| 11. 付帯調査・<br>現地再委託          |  | 12. 経費実績<br>総額<br>コンサルタント経費   | 463,095 (千円)<br>446,352   |     |    |   |  |
| 12. 経費実績<br>総額<br>コンサルタント経費 |  | 5. 技術移転   | 現調査により、カウンターパートに技術移転を促した。また、2度のカンターパート研<br>習を実施。ワルシャワにて研修機会を公的なセミナーを開催した。   |     |    |   |  |
| 5. 技術移転                     |  | 3. 主な情報源  | ①、②   |     |    |   |  |
| 3. 主な情報源                    |  | 2. 主な理由   |   |     |    |   |  |
| 2. 主な理由                     |  |   |   |     |    |   |  |

外国語名 National Transport Plan

# 案件要約表 (M/P+F/S)

作成 1995 年 3 月  
改訂 1996 年 3 月

ERP POL/S 219/93

| I. 調査の概要                    |   | II. 調査結果の概要                                  |   |                                      |   | III. 案件の現状        |  |               |
|-----------------------------|---|--|---|--------------------------------------|---|-------------------|--|---------------|
| 1. 国名                       | ポーランド   | 1. サイト又はエリア                                  | 焼却工場及び焼却最終処分場 : ポズナニ市東部クラノボ・ミハウォボ地区<br>リサイクルセンター : ポズナニ市内 8 ヵ所  |                                      |   | 1. プロジェクトの現況(区分)  | <input type="checkbox"/> 実施済・進行中 <input checked="" type="checkbox"/> 具体化準備中<br><input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 遅延・中断<br><input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 中止・消滅<br><input type="checkbox"/> 具体化進行中   |               |
| 2. 調査名                      | ポズナニ市廃棄物処理計画調査  | 2. 提案プロジェクト予算 (US\$1,000)                    | M/P   | 内貨分                                  | 外貨分                                       |                   |  |               |
| 3. 分野分類                     | 公益事業/都市衛生   | 3. 主提案プロジェクト/事業内容                            | F/S   | 内貨分                                  | 外貨分                                       |                   |  | 24,150<br>345 |
| 4. 分類番号                     |   | 1) リサイクルセンター 8 ヵ所<br>2) 焼却工場<br>3) 南半埋立最終処分場 |   | 1) 1,036<br>2) 34,341<br>3) 2,963    | 1,036<br>10,191<br>2,618                  |                   |  |               |
| 5. 調査の種類                    | M/P+F/S   |  |   |                                      |   |                   | (状況)<br>(平成 6 年度国内調査)<br>一人当たりの GNP は 1790US ドル (1991 年)、1910US ドル (1992 年) のように、時折、後半の回復の傾向にある。現在までのところ (1954 - 1994)、日本からの信用・有償資金協力はさわめて少額 (緊急食糧援助、オペラ劇場用機材、商品信託等) であり、本プロジェクトの実現化のための日本からの資金協力の可能性は必ずしも高いとは、言えない状況と思われる。ただし、1994 年度の JICA 単独機材供与として、廃棄物処理管理用機材 (25 百万円) が計画されている。なお、ポーランド国では、環境保全の強化は重要視されており、本プロジェクトの実現化は望まれている。 |               |
| 6. 相手国の担当機関                 | 計画建設省<br>ポズナニ市  |  |   |                                      |   |                   | (平成 7 年度国内調査) 追加情報なし。  |               |
| 7. 調査の目的                    | 1) 廃棄物処理基本計画の策定<br>2) 最終処分の F/S   |  |   |                                      |   |                   | (平成 7 年度在外事務所調査)<br>ポズナニ市当局の資金不足のため本件実施は難しいと思われるが、本件をもとにリサイクル半向いの為のプロジェクトは行われている。  |               |
| 8. S/W 締結年月                 | 1991 年 11 月   |  |   |                                      |   |                   |  |               |
| 9. コンサルタント                  | (社) 国際農林業協力協会<br>(株) パンフレック・インターナショナル                                       | 計画事業期間                                       | 1) 1995. -1997.<br>3) 1994.   | 2) 1998. -2000.                      |   |                   |  |               |
|                             |   | 4. フィージビリティとその前提条件                           | 有/無   | EIRR <sup>1)</sup><br>2) 15.80<br>3) | FIRR <sup>1)</sup><br>2) 9.90<br>3) 18.80 |                   |  |               |
| 10. 調査団                     | 団員数 10<br>調査期間 1992.3-1993.5(15ヶ月)<br>延べ人月<br>国内 55.61<br>現地 21.22<br>34.39 | 条件又は開発効果                                     | 1) 病廃ごみの衛生処理が可能となる。<br>2) 下水汚泥の衛生処理が可能となる。<br>3) 最終処分場の使用可能期間が長くなる。<br>4) 不法廃棄が減少する。<br>5) リサイクル率が上昇する。                 |                                      |   |                   |  |               |
| 11. 付帯調査・現地再委託              | ごみ成分分析、地形調査<br>地質調査、環境調査<br>住民意識調査  |  |   |                                      |   |                   | 2. 主な理由  |               |
| 12. 経費実績<br>総額<br>コンサルタント経費 | 271,308 (千円)<br>241,718   | 5. 技術移転                                      | ① 1992 年 3 月に JICA 受委託技術顧問団員に 3 名参加。<br>② 1992 年 9 月に JICA 受委託技術顧問団員に 10 名参加。<br>③ 1993 年 3 月に調査員 (廃棄物処理計画セミナー) を現地で開発。 |                                      |   | 3. 主な情報源<br>①、②、④ |  |               |

# 案件要約表 (M/P)

作成 1986年 3月  
改訂 1996年 3月

PLU PLUS 101/77

| I. 調査の概要                    |                          | II. 調査結果の概要  |                |     |       | III. 調査結果の活用の現状  |  |
|-----------------------------|--------------------------|--|----------------|-----|-------|--|--|
| 1. 国名                       | 複数国                      | 1. サイト<br>又はエリア  | マラッカ海峡、ロンボック海峡 |     |       | 1. プロジェクト<br>の現況(区分)   | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用<br><input type="checkbox"/> 遅延<br><input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名                      | 電子航行援助システム等設置計画          | 2. 提案プロジェクト/計画予算<br>(US\$1,000)<br>US\$1=442ルピア  | 1) 23,800      | 内貨分 | 1) 2) |  |  |
| 3. 分野分類                     | 運輸・交通/海運・船舶              | 3. 主要提案プロジェクト  |                |     |       | (状況)<br>本報告書にもとづき専門家が派遣された。<br>(平成6年度(国内調査) (平成7年度(国内調査) 追加情報なし。<br>(平成7年度在外事務所調査)<br>日本よりの旧施設により中波ラジオビーコン局 18基<br>フランスのローンによりディファレンシャル・オメガ局 5基<br>の設置が終了している。 |  |
| 4. 分類番号                     |                          | ロンボック・マカッサル海峡とマラッカ・シンガポール海峡をカバーする電子航行システムを整備する。  |                |     |       |  |  |
| 5. 調査の種類                    | M/P                      | 上内容ほ<br>デック 6チェーン<br>中波ビーコン局 3局<br>レーダーワーク 11局<br>レーダービーコン 1局<br>灯台 新設10基、改良2基<br>灯標 新設5基、改良1基 |                |     |       |  |  |
| 6. 相手国の担当機関                 | 運輸省海運総局                  |  |                |     |       |  |  |
| 7. 調査の目的                    | 近代的・総合的な航行援助システム         |  |                |     |       |  |  |
| 8. S/W 締結年月                 | 1975年 3月                 | 4. 条件又は開発効果  |                |     |       |  |  |
| 9. コンサルタント                  | (株) パシフィック・ナビゲーション・システム  | ロンボック海峡を迂回することにより、UKC 3.5m以上の船舶航行が可能となる。   |                |     |       |  |  |
| 10. 調査団                     | 団員数                      | 19   |                |     |       | 2. 主な理由  |  |
|                             | 調査期間<br>延べ入月<br>国内<br>現地 | 1976.10-1978.8(23ヶ月)   |                |     |       |  |  |
| 11. 付帯調査・現地再委託              | なし                       |  |                |     |       | 3. 主な情報源<br>①、②  |  |
| 12. 経費実績<br>総額<br>コンサルタント経費 | 107,631 (千円)             | 5. 技術移転 なし   |                |     |       |  |  |

外国語名 Establishment of Electronic and Navigational Aid System Project

# 案件要約表 (基礎調査)

作成 1986年 3月  
改訂 1996年 3月

PLU PLU/S 501/78

| I. 調査の概要   |   | II. 調査結果の概要  |   |     |     | III. 調査結果の活用の現状      |  |
|--|---|--|---|-----|-----|----------------------|--|
| 1. 国名  | 複数国   | 1. サイト<br>又はエリア  | マレー半島東岸沿岸、海面上平行に1,558km   |     |     | 1. プロジェクト<br>の現状(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用<br><input type="checkbox"/> 遅延<br><input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名   | タイ・マレーシア・シンガポール海底ケーブル建設計画                                   | 2. 提案プロジェクト/計画予算<br>(US\$1,000<br>US\$=260円)   | 1)  | 577 | 内賃分 |                      |  |
| 3. 分野分類  | 通信・放送/電気通信  | 3. 主な提案プロジェクト  |   |     |     |                      |  |
| 4. 分類番号  |   | ASEAN 加盟国間相互の国際通信サービス改善のため、インテルサット系衛星通信管線に加えて海底同軸ケーブル通信管線を新設する。そのためのケーブル敷設ルート海洋調査が目的である。   |   |     |     |                      |  |
| 5. 調査の種類   | 基礎調査  | 調査ルート ベンジャプリ (タイ)・ソクラ (タイ)・クワンタン (マレーシア)・カトン (シンガポール)  |   |     |     |                      |  |
| 6. 相手国の担当機関  | タイ通信庁<br>マレーシア電気通信総局<br>シンガポール通信庁<br>Com. Auth. of Thailand | 調査内容 水深、海底表面埋積物厚さと基盤岩の有無、埋積物採取、海底障害物探査、他<br>海洋調査時間 : 1978年4月23日～6月8日<br>ケーブルルート長 : 1,574.4km (850.4海里)<br>ケーブル敷設 : /埋設: 全区間埋設を推奨 |   |     |     |                      |  |
| 7. 調査の目的   | 海底ケーブル敷設ルートの海洋調査  |  |   |     |     |                      |  |
| 8. S/W締結年月   | 1978年 3月  | 4. 条件又は開発効果  |   |     |     |                      |  |
| 9. コンサルタント   | 洋テクノマリン (株)<br>国際電信電話 (株)                                   | 開発効果として海洋調査を実施して海底ケーブルの敷設をする結果、(3)国間のコミュニケーションが円滑に行われるようになるものと期待される。   |   |     |     |                      |  |
| 10. 調査団  | 団員数   | 18   |   |     |     |                      |  |
|  | 調査期間  | 1978.4-1978.9(5ヶ月)   |   |     |     |                      |  |
|  | 延べ人員<br>国内<br>現地  |  |   |     |     |                      |  |
| 11. 付帯調査・現地再委託   | なし  |  |   |     |     |                      |  |
| 12. 経費実績<br>総額<br>コンサルタント経費  | 157,485 (千円)<br>62,528                                      | 5. 技術移転  | D OIT: 調査の範囲で、作業目的、方法、結果の利用などを議表をしたり、作業に加わってもらった。B) 海底ケーブルの敷設調査、通信に関する調査、ケーブルテレビターの作業経験の見学など実施した。 |     |     | 3. 主な情報源             | ①  |
| 8. (状況)<br>報告書の中で述べた、全ルート埋設及びケーブル種類の構成がそのまま認められケーブルが敷設された。<br>この3国間を結ぶMSTケーブルは日本の海底同軸ケーブル方式を用い、日本業者により建設が行われた。<br>・ベンジャプリ (タイ)・ソクラ (タイ) 間はCS-12M、日本方式 (1200/4根) 全区間の74%埋設<br>・ソクラ (タイ)・クワンタン (マレーシア)・カトン (シンガポール) 間はCS-5M、日本方式 (480/4根) 全区間の85%埋設<br>総ケーブル長: 1,711km<br>システム完成: 1983年<br><br>(平成6年度国内調査)<br>電気通信システム完成後、順調に運用されている。<br><br>(平成7年度国内調査)<br>引き続き、順調に運用されている。 |   | 2. 主な理由  |   |     |     |                      |  |

外国語名 ASEAN Submarine Cable Project: Thailand-Malaysia-Singapore Route

# 案件要約表 (基礎調査)

作成1990年 3月  
改訂1996年 3月

PLU/PLU/S 502/78

| I. 調査の概要                    |                                       | II. 調査結果の概要  |    |     |       | III. 調査結果の活用の現状      |  |
|-----------------------------|---------------------------------------|--|----|-----|-------|----------------------|--|
| 1. 国名                       | 複数国                                   | 1. サイト<br>又はエリア  |    |     |       | 1. プロジェクト<br>の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用<br><input type="checkbox"/> 遅延<br><input type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名                      | マラッカ海峡ワンファザムバンク区域水路調査                 | 2. 提案プロジェクト/計画(百万US\$)   | 1) | 内貨分 | 1) 2) |                      |  |
| 3. 分野分類                     | 運輸・交通/海運・船舶                           | 3. 主な提案プロジェクト  | 2) | 外貨分 |       | (状況)                 |  |
| 4. 分類番号                     |                                       | ワンファザム(区域)における水深23m可航行路の確保と航路標識の設置位置の決定等のため、当表3カ国と日本の4カ国が共同で本路の測量を行った。 |    |     |       | (宇成7年度国内調査) 情報なし。    |  |
| 5. 調査の種類                    | 基礎調査                                  |  |    |     |       |                      |  |
| 6. 相手国の<br>担当機関             | インドネシア海運水路部<br>マレーシア海運省<br>シンガポール港務機関 |  |    |     |       |                      |  |
| 7. 調査の<br>目的                | 水路測量                                  |  |    |     |       |                      |  |
| 8. S/W締結年月                  | 1978年 8月                              | 4. 条件又は開発効果  |    |     |       |                      |  |
| 9. コンサルタント                  | (日) マラッカ海峡協議会                         |  |    |     |       |                      |  |
| 10<br>調査団                   | 団員数                                   | 7  |    |     |       | 2. 主な理由              |  |
|                             | 調査期間                                  | 1978.9-1978.12(4ヶ月)  |    |     |       |                      |  |
|                             | 延べ月<br>国内<br>現地                       |  |    |     |       |                      |  |
| 11. 付帯調査・<br>現地再委託          |                                       |  |    |     |       |                      |  |
| 12. 経費実績<br>総額<br>コンサルタント経費 | 29,985 (千円)                           | 5. 技術移転  |    |     |       | 3. 主な情報源<br>①、②      |  |

外国語名 Joint Hydrographic Survey in Malacca and Singapore Straits (one fathom bank area)

# 案件要約表 (F/S)

作成1992年 3月  
改訂1996年 3月

PLU PLU/S 301/79

| I. 調査の概要                    |   | II. 調査結果の概要  |  |                    |       | III. 案件の現状                  |   |
|-----------------------------|---|--|--|--------------------|-------|-----------------------------|---|
| 1. 国名                       | 複数国   | 1. サイト<br>又はエリア  | インドネシア、リアウ州ガラング(Galang)島、及びフィリピン、タラ(Tarala)島 |                    |       | 1. プロジェクト<br>の現状(区分)        | <input type="checkbox"/> 実施済・進行中<br><input type="checkbox"/> 具体化準備中<br><input type="checkbox"/> 実施済<br><input type="checkbox"/> 一部実施済<br><input type="checkbox"/> 実施中<br><input type="checkbox"/> 具体化進行中<br><br><input type="checkbox"/> 完成・中断<br><input checked="" type="checkbox"/> 中止・消滅 |
| 2. 調査名                      | インドシナ難民センター建設計画   | 2. 提案プロジェクト費<br>(US\$1,000)  | 1) 13,000                                    | 内貨分                | 2) 3) |                             |   |
| 3. 分野分類                     | 社会基盤/建築・住宅  | 3. 主要事業内容  | 2) 外貨分                                       |                    |       |                             |   |
| 4. 分類番号                     |   | (状況)不明<br>① 陸連合移民高等事務官事務所 (UNHCR) と協力して、インドネシア国政府及びフィリピン政府は、下記のとおり、各省々インドシナ難民を一時的に収容するセンターの建設を計画しており、その実施性について調査を実施した。当該センターは、インドシナ難民のうち第3国に既に定住の決定した難民を対象とし、実際に移住できるまでの間、一時的 (約3ヵ月をサイクルとする) に収容するもので、UNHCR 管理の下に運営する。<br>② フィリピン・タラ島移民センター：<br>1) インドネシア・ガラング島移民センター：<br>移民用建物 (収容人口10,000人) と管理棟 (150人を対象) に大別される。移民用として、1棟50人、500平米の本造(バツク)200坪及び共同便所、浴室、倉庫が計画されている。<br>2) フィリピン・タラ島移民センター：<br>現在のところ、移民5,000人、及びスタッフ150人を対象とする計画であるが、暫定的な計画としてジャカルタ会議に提出されたものであって、十分な検討が行われていない。 |  |                    |       |                             |   |
| 5. 調査の種類                    | F/S   |  |  |                    |       |                             |   |
| 6. 相手国の担当機関                 |   | 8. S/W 締結年月  | 年 月  | 計画事業期間             | 1) 2) |                             |   |
| 7. 調査の目的                    | ① 陸連合移民高等事務官事務所 (UNHCR)、及びインドネシア政府、フィリピン政府の要請に基づいて、UNHCR と共同して計画の検討を行う。 | 9. コンサルタント   |  | 4. フィージビリティとその前提条件 | 右/無   | EIRR 1) 2) 3) FIRR 1) 2) 3) |   |
| 10. 調査回数                    | 1) 回目数<br>調査期間 1979.6-1979.10(4ヶ月)<br>延べ人員<br>国内<br>現地                  | 条件又は開発効果<br>1) Galang島の立地条件は、インドネシア・リアウ諸島の中心都市であるTanjung Pinangに近く、かつシンガポールにも近接しており、輸送・通信等から見て良好である。<br>2) フィリピン・タラ島移民センターの計画の基礎となるべき測量・水質調査、輸送施設等に関する十分な資料が整備されていない。このため、調査団としては、経費の積算は勿論、計画の後半までにも至らず、この地区に移民センターを建設する場合の基本的な考え方や今後の検討を進める上で必要な調査項目等のチェックリストを示すにとどめた。  |  |                    |       |                             |   |
| 11. 付帯調査・現地再委託              |   |  |  |                    |       |                             | 2. 主な理由   |
| 12. 経費実績<br>総額<br>コンサルタント経費 | 18,448 (千円)   | 5. 技術移転  |  | 3. 主な情報源           |       |                             |   |

別国語名 Construction of Indo-Chinese Refugee Camps



# 案件要約表 (基礎調査)

作成1986年 3月  
改訂1996年 3月

PLU PLU/S 503/82

| I. 調査の概要                    |  | II. 調査結果の概要   |  |           |     | III. 調査結果の活用の現状      |  |    |   |    |
|-----------------------------|--|---|--|-----------|-----|----------------------|--|----|---|----|
| 1. 国名                       | 複数国  | 1. サイト<br>又はエリア   | マラッカ、シンガポール海峡海峽全般  |           |     | 1. プロジェクト<br>の現況(区分) | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用<br><input type="checkbox"/> 遅延<br><input type="checkbox"/> 中止・消滅 |    |   |    |
| 2. 調査名                      | マラッカ・シンガポール海峡<br>統一基準点海図作成                           | 2. 提案プロジェクト/<br>計画子符<br>(US\$1,000)   | 1)   | 1,004,820 | 内賃分 |                      |  | 1) | 585,149   | 2) |
| 3. 分野分類                     | 社会基盤/測量・地図   | 3. 主な提案プロジェクト   | 2)   |           | 外賃分 |                      | 419,671  |    |   |    |
| 4. 分類番号                     |  | マラッカ海峡北口からシンガポール海峡北口にかけての本域の航海用海図の原因となる長一基<br>他点作製を目的とする。共通の測地データにもとづく海図及び陸地の情報をそろえるために以<br>下の作業を行なう。<br>基準点調査 基準点における衛星測地測量<br>データ計算処理<br>新しい資料収集及び統一基準点海図編集<br>陸地調査及び編集 |  |           |     |                      |  |    |   |    |
| 5. 調査の種類                    | 基礎調査   |   |  |           |     |                      |  |    |   |    |
| 6. 相手国の<br>担当機関             | インドネシア、マレーシア、シンガ<br>ポールの各国水路局<br>Hydrographic Office |   |  |           |     |                      |  |    |   |    |
| 7. 調査の<br>目的                | 海図作製及び潮流調査   |   |  |           |     |                      |  |    |   |    |
| 8. S/W締結年月                  | 1977年 7月   |   |  |           |     |                      |  |    |   |    |
| 9. コンサルタント                  | (H) マラッカ海峡協議会  | 4. 条件又は開発効果   | 開発効果：沿岸3国との共同作業によってマラッカ・シンガポール海峡における同海峡の潮<br>汐・潮流の特性の調査により、航海用海図の原因となる長一基準点海図の作成が行われた。<br>同海峡の潮汐・潮流の特性を調査すると共にその情報を行うことにより、航行の安全、特に<br>巨大船の安全通行に寄与し、海難防止をもたらし、事後自主調査による開発が促進された。 |           |     |                      |  |    |   |    |
| 10. 調査団                     | 団員数  | 457   |  |           |     |                      |  |    |   |    |
|                             | 調査期間<br>延べ人月<br>国内<br>現地                             | 1978.5-1982.5(49ヶ月)   |  |           |     |                      |  |    |   |    |
| 11. 付帯調査・<br>現地再委託          | なし   | 2. 主な理由   |  |           |     |                      |  |    | マラッカ・シンガポール海峡は航海者にとって難所の一つにされており、更に大型船の<br>出現によって、より精密な情報が必要となった。 |    |
| 12. 経費実績<br>総額<br>コンサルタント経費 | 318,670 (千円)<br>1,004,820                            | 3. 主な情報源  |  |           |     |                      |  |    | ①   |    |
|                             |  | 5. 技術移転   | 研修員の受け入れ：各作業団にインドネシア、マレーシア、シンガポールからコンサルタント<br>が出向し、現地でのデータ処理に関する研修を行い、互に、打ち合わせを行った。(共同で<br>報告書目録：マラッカ・シンガポール海峡潮汐・潮流共同調査に関する調査書、同海峡統一<br>基準点海図の共同作成に関する報告書、第1・2次計画(いずれも6・15頁)     |           |     |                      |  |    |   |    |

外国語名 Joint Production of Common Datum Charts of the Straits of Malacca and Singapore

# 案件要約表 (基礎調査)

作成1990年 3月  
改訂1996年 3月

PLU PLU/S 504/84

| I. 調査の概要                    |                           |   | II. 調査結果の概要                                   |     |       |  | III. 調査結果の活用の現状  |         |
|-----------------------------|---------------------------|---|---|-----|-------|--|--|---------|
| 1. 国名                       | 複数国                       | 1. サイト<br>又はエリア   | インドネシアの陸揚地バンタイナルミンとスリランカの陸揚地コロンボとを結ぶ海底ケーブルルート |     |       | 1. プロジェクトの<br>現況(区分)   | <input checked="" type="checkbox"/> 進行・活用<br><input type="checkbox"/> 遅延<br><input type="checkbox"/> 中止・消滅 |         |
| 2. 調査名                      | メダン〜コロンボ海底ケーブル建設計画        | 2. 提案プロジェクト/計画予算 (US\$1,000)  | 1)  | 内貨分 | 1) 2) |  |  |         |
| 3. 分野分類                     | 通信・放送/電気通信                | 3. 主な提案プロジェクト   | 2)  | 外貨分 |       | (状況)<br>(平成6年度現地調査)<br>・SWE-WE-ME 1 (マドレーン〜シンガポール) プロジェクトの一部(メダン〜コロンボ部分)として、1986年に完成済である。<br>・回線数は、ケーブルとしては2,160でPT. Indosat部分は133回線である。<br>・資金は日本からの輸出信用(金額139億円)を用いている。<br><br>(平成6年度国内調査) (平成7年度国内調査) 追加情報なし。 |  |         |
| 4. 分類番号                     |                           | 両陸揚地点間ルート長1,384.1mmの海底ケーブル (ケーブル区間の平均ケーブルスラックは約2%、全ケーブル長1,412.7m)   |   |     |       |  |  |         |
| 5. 調査の種類                    | 基礎調査                      |   |   |     |       |  |  |         |
| 6. 相手国の担当機関                 | インドネシア郵電総局<br>スリ・ランカ電気通信局 |   |   |     |       |  |  |         |
| 7. 調査の目的                    | 海洋調査、ルート選定、財務分析           |   |   |     |       |  |  |         |
| 8. S/W締結年月                  | 1983年 3月                  | 4. 条件又は開発効果   |   |     |       |  |  |         |
| 9. コンサルタント                  | 国際電信電話 (株)<br>三洋水産海技 (株)  | メダン〜コロンボ間海底ケーブルは、シンガポールからフランスまでを結ぶSEA-ME-WEケーブルプロジェクトの一区間をなすものである。現在インドネシア及びスリランカ間の国際電気通信サービスは上として衛星通信システムにより行なわれているが、今後の国際通信の需要増加に対処して通信サービスの高信頼化が実現される。 |   |     |       |  |  |         |
| 10. 調査団                     | 団員数                       | 9   |   |     |       |  |  |         |
|                             | 調査期間<br>延べ入月<br>国内<br>現地  | 1983.8-1984.3(8ヶ月)  |   |     |       |  |  |         |
| 11. 付帯調査・現地再委託              | なし                        |   |   |     |       |  |  | 2. 主な理由 |
| 12. 経費実績<br>総額<br>コンサルタント経費 | 330,969 (千円)              | 5. 技術移転   | ・カウンタートップに於いてCONを実施                           |     |       | 3. 主な情報源   | ①、⑤  |         |

別国語名 Medan(Indonesia)-Colombo(Sri Lanka)Submarine Cable Project

IM/P. 基礎調査, その他]







JICA